

ピアホームだより

2023. 8. 10

基礎研修・精神疾患の理解から

—統合失調症について—

ピアホームⅡの世話人の和田です。先月、東京都立中部総合精神保健福祉センター主催の研修『精神疾患の理解と対応～統合失調症と気分障害～』を受講しました。

私は統合失調症の症状に悩みを抱えるグループホームの利用者さんを思い浮かべながら講義を聞かせて頂いたので、大変勉強になりました。

統合失調症の特徴的な症状は、大きく、陽性症状・陰性症状・認知機能障害の3つに分けられます。

陽性症状である不快な声や音が聞こえる『幻聴』、誰かに監視されているなどの『妄想』、操られている・自分の

考えが伝わってしまうなどの『自我障害』、考えがまとまらない・考えが中断され突然言葉が出なくなるなどの

『思考障害』があります。急性期の陽性症状が治まると、今まで感じていた楽しさが失せ、意欲が低下、疲れやすく朝起きられないなどの陰性症状が続きます。また、認知機能の症状—記憶力減退、作業スピードの低下、理解の困難さなど、ワーキングメモリーの障害も大きな問題となって来ます。自分が精神疾患だと理解することの困難さ（病態失認）も前頭葉機能障害との関連が指摘されているそうです。

これらは日常生活を送るのにとっても大きな悩みだということを利用者さんと接していて痛感しています。

陽性症状のある時は薬物療法が有効ですが、心理社会的治療（認知行動療法、SST、OT、レクリエーション療法、デイケア、地域生活支援、家族支援）も大切だそうです。幻聴や妄想に対しての対応の工夫として、中立的な態度で「不思議ですね、あなたには

聞こえるんですね。でも、私には聞こえないんですよね。」「(妄想に対して)それは心配ですね。本当なら大変なことですよね。」などと、当人がそう感じていることを認め、”振り回されないよう”助言をしても良いそうです。ただ、症状を執拗に聞き出すことは結果、妄想を無用に発展させてしまうので注意が必要とのことでした。

そして支援員として、統合失調症の症状改善だけに焦点を置くのではなく、症状があってもご本人のやりたいこと、叶えたいことを優先し、生活が充実することで症状と折り合いをつけていけるようにすることが大切だと学びました。

統合失調症だけに限らず、障害を抱えている皆さんが少しでも暮らしやすい地域となりますよう周囲の方々から理解を得られるよう努力をし、一人ひとりに寄り添った支援がしたいと改めて感じた研修でした。

8月の予定

8月8日:白石顧問を迎え面談会